〈研究ノート〉

日韓翻訳における異文化コミュニケーション・ストラテジー
――Vinay と Darbelnet による七つの方法を中心に

李　　英　和

１．はじめに

韓国では 1998 年に日本の大衆文化開放政策が始まり、2004 年まで 4 次にわたり日本大衆文化は段階的に開放された。それにより漫画やアニメをはじめ映画や音楽、ゲームなど日本の大衆文化が韓国で広がるようになった。特に、それまで規制されなかった日本の図書の韓国語翻訳も盛んになされていて、日本の小説は現在もベストセラーに入っているなど、読者層がますます増えている。一方、日本における韓国の大衆文化に対する関心は、2000 年代に入ってから一般に〈韓流〉と呼ばれる韓国大衆文化の流行により、比較的性別に関係なく幅広い年齢層にも高まっている [1]。今はドラマや K-POP だけではなく韓国の様々な分野に対して関心が向けられている。にもかかわらず、日本で韓国の図書の出版状況は英語をはじめ他の諸外国の図書の出版に比べれば、翻訳の出版量が極めて少ない。翻訳は人間の情報交換やコミュニケーション行為に結びついているため、これから韓国の図書の翻訳書が数多く刊行され、韓国の図書に対する関心を高めていき、これから書かれたものを読んで、韓国人の考え方や内面の世界を読み取ることができ、円滑な異文化コミュニケーションができることを期待する。

そこで、本稿では、まず日本の小説の韓国語訳を取り上げて日韓翻訳において異文化の違いをどのように解決しているのか翻訳理論を応用して分析を試みる。現状ではまだ翻訳理論を用いて、日本や韓国をはじめとする非西欧の状況を研究対象にすることは多くないが、日韓翻訳の場合にどのようなことが言えるのか、検証を試みたい。具体的には、ヴィネイとダルベルネ（Jean-Paul Vinay & Jean Darbelnet）による 7 つの翻訳ストラテジーに注目する。

２．機能主義翻訳理論の諸学説と分析方法

翻訳学とは従来、哲学や言語学、比較文学など複数の分野にまたがった領域であったが、20 世紀半ばから欧米を中心に学際的な翻訳学（translation studies）という独立分野を形成してきた [2]。翻訳についての学術研究が体系化された契機は、翻訳と等価に関する言語学的な研究であった。以降、等価概念について様々な定義がなされた。1958 年、ヴィネイとダルベル

ネは、フランス語・英語間の比較文体論の分析を行い、翻訳方略のひとつとして等価が論じられていた。これは後で詳しく説明する。ヤーコブソン（Roman Jakobson）も同時期に、翻訳は言語内翻訳、言語間翻訳、記号法間翻訳の 3 種類に分類できるといい、翻訳のためのメタ言語として等価の概念を用いた。「翻訳者は別のソースから受け取ったメッセージをコード変換し伝達する。かくして翻訳には、二つの異なったコードと二つの等価なメッセージが関わる」[3] という。その後、1960 年代にナイダ（Eugene Nida）による等価に関する論説がある[4]。起点言語志向の「形式的等価」と受容者志向の「動的等価」である。いわば、直訳的なものと意訳的なものの対立する概念であるが、ナイダ自身は起点テキスト環境の「異質性」を最小限に排除し、「起点言語のメッセージに対して最も近い自然な等価」を追求する動的等価を目指した。このような分類は多くの理論学者によって提案された。ニューマーク（Peter Newmark）は、オリジナルの正確な文脈的意味を訳そうとする「意味重視の翻訳」と、読者にオリジナルの読者が得たのと同じ効果を与えようとする「コミュニケーション重視の翻訳」について論じた。また、コラー（Werner Koller）は、等価と対照言語学の分野に属する概念である対応を比較して、対応の知識は外国語能力を示すが、翻訳においては等価の知識と能力だと指摘した [5]。その他にもさまざまな学説が提唱されている。

しかし、こうした等価の考え方に多くの反論や批判があった。実際の翻訳行為の際には、意味を重視すべきか、形式を重視すべきかという二つの分類に止まらず、様々な条件や状況に応じて適切な方法を選んで翻訳を行うことになる。一つの文章を翻訳するには、数多くの方法を組み合わせて翻訳し切るからだ。翻訳の実践面での理論的展開として、ヴィネイとダルベルネをはじめナイダの 5 つの調整技術、キャトフォート（J.C. Catford）の翻訳によるシフト、ニューマークの一般的翻訳ストラテジーなど数多くの翻訳ストラテジー論が提案された[6]。

本稿はヴィネイとダルベルネによる翻訳ストラテジーの 7 つのカテゴリーにおける考察を課題としているのでそれについて簡略にまとめておきたい。ヴィネイとダルベルネによる 1958 年の著作 *Stylistique comparée du français et de l'anglais*（英仏比較文体論）[7] では、言語学的側面から翻訳方略のひとつとして等価という用語が用いられていた。本書でヴィネイとダルベルネは翻訳ストラテジーとして「直接的翻訳」（direct translation）と「間接的翻訳」（oblique translation）という二つの翻訳方法に分けた。また、そこからさらに細かく 7 つのカテゴリーに分けている。「直接的翻訳」を「借用」（borrowing）、「語義借用」（calque）、「直訳」（literal translation）の 3 つ、「間接的翻訳」を「転位」（transposition）、「調整」（modulation）、「等価」（equivalence）、「翻案」（adaptation）の 4 つに分類した。ピム（Anthony Pym）は、ヴィネイとダルベルネが提示したこのような等価概念を「自然的等価」（natural equivalence）としている。[8]

それでは、ヴィネイとダルベルネによる翻訳方法を示す 7 つのカテゴリーの説明とそれに当てはまると思われる例を見てみる。本稿では、起点テキスト（Source Text）を ST と、目標テキスト（Target Text）を TT と表記する。

２．１．直接的翻訳（직접번역）

(1) 借用（차용）

ある言語圏に存在しないか、あるいはその言語使用者にはなじみのない新概念を表現するため、起点テキストの言葉をそのまま借りて目標テキストに使用する方法である。

例 1）日本語の ST と韓国語の TT

（ST）たたみ →（TT）다타미

例 2）韓国語の ST と日本語の TT

（ST）비빔밥 →（TT）ビビンバ

(2) 語義借用（모사）

起点テキストの句をそのままコピーして字句的に翻訳する方法

例 1）日本語の ST と韓国語の TT

（ST）失われた 10 年 →（TT）잃어버린 10 년

例 2）韓国語の ST と日本語の TT

（ST）새빨간 거짓말 →（TT）真っ赤なウソ

(3) 直訳（직역）

言語レベルの同質性と文法規則のみを意識して、1 対 1 対応に翻訳する方法

例 1）日本語の ST と韓国語の TT

（ST）私はお酒が駄目です。→（TT）저는 술이 안 돼요.

例 2）韓国語の ST と日本語の TT

（ST）기운이 없어요. →（TT）気運がないです。

２．２．間接的翻訳（간접번역）

(4) 転位（치환）

談話の全体的な意味には変化なく、その一部を他の表現に替えて翻訳する方法であるが品詞の変化が多い。

例 1）日本語の ST と韓国語の TT

（ST）お出かけですか。

（TT）어디 나가세요?

例 2）韓国語の ST と日本語の TT

（ST）엄청 열 받는다

（TT）すごく頭にくるのよ。

(5) 調整（변조）

起点言語（ST）の意味と視点を変えて翻訳する方法で、認め方やボイスなどが転換される。

例 1）日本語の ST と韓国語の TT

（ST）思わず涙がでる。

（TT）나도 모르게 눈물이 난다.

例 2）韓国語の ST と日本語の TT

（ST）누가 때렸니?

（TT）誰に叩かれたの？

(6) 等価（등가）

同じ状況を表現するために出発語とまったく異なる文体や文の構成を使用して翻訳する方法で、慣用句や諺などを翻訳する際に役立つ。

例 1）日本語の ST と韓国語の TT

（ST）身勝手な話

（TT）아전인수격인 이야기

例 2）韓国語の ST と日本語の TT

（ST）금강산도 식후경

（TT）花より団子

(7) 翻案（번안）

起点文化のある状況が目標文化に存在しない場合、等価が認められる新しい状況や文化的言及対象を変えることである。

例 1）日本語の ST と韓国語の TT

（ST）団塊世代

（TT）제 1 차 베이비붐세대

例 2）韓国語の ST と日本語の TT

（ST）3 평 정도의 넓이

（TT）6 枚の畳ぐらいの広さ

では、ヴィネイとダルベルネによる七つの翻訳方法を用いて起点テキストの形式や内容、効果などをどのように目標テキストに取り入れようとしたのかについて分析を行う。

３．韓国語訳の具体例分析

具体的分析の対象は、吉本ばなな著『キッチン』(ベネッセ、1988 年）とその韓国語訳『키친（キッチン)』（民音社、2015 年）を用いる。様々なジャンルの翻訳の中でも、特に文学作品の場合は、翻訳者の解釈がテキストに介入することが多いので他のジャンルよりもストラテジーの重要性を垣間見ることができる。翻訳手法に当てはまる ST の例文と TT の訳文をあげてそれぞれの箇所でどのようなコミュニケーション機能がなされているのかその妥当性について検討する。

３．１．借用（차용）

(ST1)「みかげさん、家の母親にビビった？」彼は言った。「うん、だってあんまりきれいなんだもの。」（p21）

(TT1) “미카게 씨, 우리 엄마 보고 쫄았어요?” 그가 물었다. “네, 너무너무 예쁘잖아요.” (p16)

(ST2) ゆかたの上に丹前を着た寒そうな酔っぱらいの観光客がたくさんいて、大声で笑いゆきかう。（p138）

(TT2) 유카다 위에 덧옷을 입은 술 취한 관광객들이 우글우글, 큰 소리로 웃으며 오간다. (p94)

（ST1）の「みかげ」という人の名前が（TT1）に音訳の「미카게」と訳されている。(ST2）の場合、「ゆかた」をそのまま借用して（TT2）に「유카타（浴衣）」と訳され、さらに「목욕 후에 입는 일본식 홑 면옷（入浴後に着る日本式一重綿服 - 訳者）」と訳者注が付けられている。ここでは前後の文脈から考えると旅館に備え付けられている浴衣であることが推測できる。しかし、夏祭りに着る華やかな浴衣もあれば、夕涼みに着られる浴衣もあるので注の機能が明らかになっていない。一方、「丹前」については「덧옷（服の上に重ねて着る服）」と訳され、注釈がついてない。

(ST3) 私は思わず彼女を見た。嵐のようなデジャヴーがおそってくる。光、ふりそそぐ朝の光の中で、木の匂いがする、このほっこりぽい部屋の床にクッションをひき、寝ころんで TV を見ている彼女がすごく、なつかしかった。（p29）

(TT3) 나는 자기도 모르게 그녀를 보았다. 폭풍우처럼 데자뷰가 덮쳐온다. 빛, 쏟아지는 아침 햇살 속에서, 먼지 끼고 나무 냄새나는 바닥에 쿠션을 깔고 누워, 텔레비전을 보고 있는 그녀가 무척이나 정겨웠다. (p22)

（ST3）の下線部「デジャヴー」は、TT の文化でもよく使われる言葉なので外来語そのまま「데자뷰（デジャヴー）」と訳されている。音訳は特定の文化に固有の事物や概念を訳す場合に用いられる方法であるが、（TT3）のように ST の外来語が TT の文化で通用する言葉なのでそのまま借用している。

３．２．語義借用（모사）

（ST4）「じゃ、よろしく。みかげさんが来てくれるのをぼくも母も楽しみにしてるから。」（p11）

（TT4）“그럼 미카게 씨가 와주길, 어머니나 저나 기다리고 있을 테니까요.”（p10）

（ST5）「明日からよろしくね。」（p19）

（TT5）“내일부터 잘 부탁해요”（p15）

（ST4）の下線部「じゃ、よろしく。」については、「그럼（では）」と訳され、「よろしく」のところが削除されているのに対し、（ST5）の「よろしくね」は、「잘 부탁해요（よろしくね）」になっている。

（ST6）私はふしつけなまでにじろじろ見つめながら、「はじめまして。」とほほえみ返すのがやっとだった。（p19）

（TT6）나는 무례할 정도로 힐금힐금 쳐다보면서 “안녕하세요.”라고 인사하고 미소를 띠기가 고작이었다.（p15）

（ST7）彼女ははあはあ息をつきながら少しかすれた声で、「はじめまして。」と笑った。（p19）

（TT7）그녀는 헉헉 숨을 쉬며 약간 쉰 목소리로, “처음 뵙네요.” 라며 웃었다.（p15）

（ST6）と（ST7）の「はじめまして。」は、（ST6）では「안녕하세요（こんにちは）」と、（ST7）では「처음 뵙네요（はじめまして）」とそれぞれ違う言葉で訳されている。同じ言葉であっても前後の文脈によって字句的に訳されているので不自然ではない。

（ST8）「おはよう。」とふりむいたその顔の派手さがいっそうひきたち、私はぱっと目がさめた。「おはようございます。」とおきあがると、彼女は冷蔵庫を開けて困っている様子だった。（p28）

（TT8）“잘 잤어요? ” 라며 돌아보는 그 얼굴이 한결 화려하여, 나는 화들짝 잠이 다 달아나고 말았다. “잘 주무셨어요? ” 그녀는 냉장고 문을 열고 난감하다는 표정이었다.（p21）

（ST8）の例では、「おはよう。」と「おはようございます。」が「잘 잤어요?（よく眠れましたか)」と「잘 주무셨어요?（ぐっすりお休みになられましたか)」と TT の文化に合わせてそれぞれ丁寧の語尾と尊敬の語尾に訳されている。ST との形式的対応関係がなくても意味内容がほぼ同じである語義借用はこの箇所以外にもよく見られる。

３．３．直訳（직역）

(ST9) 待ち合わせたデパートの四階の喫茶店に、学校帰りの柊は、セーラー服でやってきた。（p179）

（TT9）히라키는 약속 장소인 백화점 4 층 찻집에 세일러복 차림으로 나타났다.（p121）

（ST10）「（...）知っている人は七夕現象と呼ぶ。（...）」（p220）

（TT10）“（...）알고 있는 사람들은 칠석 현상이라고 해요.（...）”（p149）

（ST9）の例では、「セーラー服」が「세일러복（セーラー服）」に訳されている。（ST9）を語順の通り訳すれば、「만나기로 한 백화점 4 층 찻집에 학교에서 돌아오는 길인 히라키는 세일러복 차림으로 다가왔다」になる。いわば、（TT9）では「学校帰り」という箇所が削除されている。訳者が意図的に省略したかどうかはわからないが TT に訳漏れが見られる。（ST10）の下線部「七夕」においては、TT の文化にも似た風習があるので逐語訳に近い「칠석（七夕）」と訳されている。

（ST11）悪く言えば、魔がさしたというのでしょう。しかし、彼の態度はとても“クール”だったので、私は信じることができた。（p12）

（TT11）나쁘게 말하면 마(魔)가 낀 것이리라. 하지만 그의 태도는 아주 ‘쿨’ 했다. 믿음직스러웠다.（p10）

（ST11）の「魔がさした（마가 끼다)」は「邪念が起こって一瞬判断や行動を誤る」という意味の仏教用語であるが、TT の文化でも同じ言葉を使われているのでそのまま訳されている。さらに「クール」という言葉は、英語の「cool」をそのまま借用して表記しているが、TT の文化にも冷静であること、物事に感情が動かされないさまを表す「쿨（クール)」という言葉が使われるので外来語をそのまま借用している。

（ST12）葬式の日、突然田辺雄一がやってきた時、本気で祖母の愛人だったのかと思った。焼香しながら彼は、泣きはらした瞳をとじて手をふるわせ、祖母の遺影を見ると、またぽろぽろと涙をこぼした。（p12）

(TT12) 장례식 날, 다나베 유이치가 불쑥 찾아왔을 때, 나는 그가 정말 할머니의 애인인 줄 알았다. 분향을 하면서 그는, 퉁퉁 부어오른 눈을 꾹 감고 손을 떨었다. 할머니의 영정을 보자, 다시 눈물을 뚝뚝 흘렸다. (p11)

(ST11) に対し、(ST12) においては、「焼香」は「분향 (焚香)」に、「遺影」は「영정 (遺影)」に 1 対 1 対応に訳されている。さらに (ST12) の場合、句読点が多いが、TT にも同じ位置に句読点が打たれている。訳者が著者の意図をそのまま伝達しようとしていたのか分からないが読みづらいところがある。ヴィネイとダルベルネによれば、1 つの SL の表現に対し、1 つの TL の表現が対応する直訳は同じ系統と文化に属する言語間では最も一般的なものであるといっている。しかし、形態が異なる言語間における翻訳の場合は、語順を変えて移転した形で訳される。いわば、起点言語における形態的要素の語順を変えて目標言語に当てはめるのである。

３．４．転位（치환）

(ST13) ものすごくきたない台所だって、たまらなく好きだ。 (p7)
(TT13) 구역질이 날 만큼 너저분한 부엌도 끔찍이 좋아한다. (p7)

(ST13) の場合、「ものすごくきたない台所だって」を直訳すると、「굉장히 더러운 부엌도」になるが、「구역질이 날 만큼 너저분한 부엌 (吐き気がするほど散らかった台所)」になっている。文の構造と全体の意味は変わらないが「汚い台所」であることをもっと強調している。

(ST14) 雄一は学校とバイト、えり子さんは夜仕事なので、この家全員がそろうことはほとんどなかった。 (p35)
(TT14) 유이치는 학교와 아르바이트 사이를 오가고, 에리코 씨는 주로 밤에 일을 하기 때문에 식구가 한자리에 모이는 일은 거의 없었다. (p25)

(ST14) を直訳すると、「유이치는 학교와 바이트, 에리코 씨는 밤일이기 때문에, 이 집의 전원이 모이는 일은 거의 없었다」となるが、「学校とバイト」という箇所が「학교와 아르바이트 사이를 오가고 (学校とバイトの行き来しながら) 」の意味になっている。さらに、「夜仕事」という箇所も「주로 밤에 일을 하기 때문에 (主に夜に仕事をするために)」と訳され、品詞の変化や説明が付け加えられている。

(ST15) 私の好きな、この台所で―ふと、ラーメンとは妙な偶然だわ、と思った私はふざけて雄一に、背中を向けたまま、「夢の中でもラーメンって言ってたね。」と言った。 (p65)
(TT15) 내가 좋아하는 이 부엌에서－불현듯, 라면이라니 묘한 우연이네, 라고 생각한 나는

등을 돌린 채 유이치에게 말했다.“꿈속에서도 라면 끓였었지”（p46）

（ST15）の場合、「「夢の中でもラーメンって言ってたね。」 と言った。」をそのまま訳すると、「「꿈속에서도 라면이라고 말했었지.」라고 말했다.」になる。しかし、（TT15）には「유이치에게 말했다.“꿈속에서도 라면 끓였었지”（雄一に言った。「夢の中でもラーメン作っていたね。)」となって、名詞を動詞に変えるなど品詞の変化や、文の構造を変えて訳されている。さらに、「私はふざけて」という箇所が削除されている。「省略」は結束性を保持したり、煩雑さを避ける効果を狙ったものであるが、省略された箇所がしばしば見られる。ヴィネイとダルベルネは、転位を「翻訳者が行う最も一般的で構造的な変更」と見ている。

３．５．調整（변조）

（ST16）田辺家にひろわれる前は、毎日台所で眠っていた。（p8）
（TT16）다나베네 집에 신세를 지게 되기 전까지, 나는 매일 부엌에서 잠들었다.（p8）

（ST17）「よく、わかんない。」私は言った。「あまり会わないし。……話も特別しないし。私、犬のようにひろわれただけ。別に、好かれてるんでもないしね。」（p41）
（TT17）“난 잘 몰라. 마주치는 일도 별로 없고. ……특별히 할 얘기도 없고. 날 길 잃은 강아지처럼 주워들였을 뿐이야. 딱히 날 좋아하는 것도 아니고.(중략)”（p29）

（ST16）の「ひろわれる」と（ST17）の「ひろわれただけ」の例を見ると、（TT16）においては「신세를 지게 되기 전까지（お世話になる前は)」に、（TT17）は「주워들였을 뿐이야.（ひろっていれただけ)」と訳されている。両方とも TT の文化にはあまり使われていない受け身の表現である。（TT16）は TT の文化の読者が理解しやすいように意味と視点を変えて訳されているが、（TT17）の訳は日本語の受け身をそのまま韓国語に訳するときに起こりうる不自然な表現である。

３．６．等価（등가）

（ST18）そして、これ以上ろくでもないことはないだろうと確信していたのに、上には上があるものだ。（p89）
（TT18）그리고 더 이상 별일 아닌 일은 없을 것이라고 확신했는데, 뛰는 놈 위에 나는 놈이 있는 법이다.（p61）

（ST19）「泣いて怒るのは想像上の私だったでしょ。案ずるより生むがやすし。」（p100）
（TT19）“울면서 화내는 것은 상상 속의 나였겠지. 실제로 부딪쳐 보지도 않고서.”（p68）

（ST18）の場合、「上には上があるものだ」を直訳すれば、「위에는 위가 있는 것이다」になるが、（TT18）では TT の文化に当てはまる諺の「뛰는 놈 위에 나는 놈이 있는 법이다.（走る者の上に飛ぶ者あり）」に置き換えられている。しかし、逆に（ST19）では（ST18）とは違って「案ずるより生むがやすし。」の箇所が、TT の文化にはそれに対応する諺がないためパラフレーズの「실제로 부딪쳐 보지도 않고서（実際、ぶつかり合ったこともないのに）」に訳されている。「案ずるより生むがやすし。」は、「心配していても実行してみれば意外に簡単なこと」を意味する諺であるが、（TT19）においては、ぶつかり合ったことのない自分に対して後ろめたい気持ちを表す意味が含まれている。

３．７．翻案（번안）

（ST20）深く沈んだ暗い街並の民家の屋根に混ざって、小さな神社の鳥居がいくつも、いくつもあった。（p148）
（TT20）깊이 잠든 어두운 거리, 민가의 지붕에 섞여 조그만 신사의 기둥이 여기저기 서 있었다. （p100）

（ST20）の「鳥居」は、TT の文化に同じ言葉がないため、「기둥柱）」と置き換えられている。「翻案」というカテゴリーに分類するには少し認めにくいところがある。しかし、TT 文化に存在しないものであり、それを TT の文化により馴染みのある別のものに置き換えるということを考えて翻案のカテゴリーに分類した。

４．まとめと結論

本稿では、ヴィネイとダルベルネによる翻訳方法の 7 つのカテゴリー別に『キッチン』の韓国語訳を分析してみた。先述したように、ヴィネイとダルベルネによる翻訳の 7 つのカテゴリーは、フランス語と英語間の翻訳を扱っているので、最初に試みる翻訳手順は「直訳」の方法である。「直訳」がうまくいかない場合には、「借用」や「語彙借用」の方法を、さらに難しい場合は、「転位」と「調整」の方法を試みるのである。[9] しかし、本稿は日本語と韓国語間の翻訳を扱っているので翻訳手順に従わずに、それぞれのカテゴリーごとに当てはまると思われる訳を探して分析を試みた。

その結果、借用の場合は、名前以外の TT の文化に存在しない馴染みのない言葉には注をつけて説明したり、注が付けられていない箇所もテキストの意味内容を把握するのにあまり影響を与えなかった。語義借用の場合は、形式的対応関係がなくても意味内容があまり変わらないことがわかった。直訳と転位の方法では、TT の読者が自然に読むことができる同化的ストラテジーが取られていた。等価の方法は、TT の文化に ST の文化に対応する諺がある場合は TT の文化に当てはまる諺を用い、同じ意味の諺がない場合はパラフレーズに置き換え

て訳されている。さらに、翻案というカテゴリーは、異文化コミュニケーションの点から考えるとき、いくつかの問題点が浮上する。テキストを訳する場合、翻案は ST の伝えようとする内容や意味と違って TT の読者に正しく伝達されたり、また著者の意図を尊重されない可能性があるので考慮しなければならない。全体的には一般読者向けの小説の翻訳であるだけに TT の読者が自然に読めるように同化的ストラテジーが取られていると結論付けられよう。

【注】

[1] 韓国における日本大衆文化開放に対する論文は、鄭榮蘭「『日本文化開放』が韓国社会にもたらした影響―韓国政府による開放決定の背景と日本の生活文化流入の状況」(『アジア太平洋研究センター年報』第 13 号 2015－2016、大阪経済法科大学、2016 年）と、徐賢燮「韓国における日本文化流入制限と開放」(『研究紀要』(13)、長崎県立大学、2012）を参照した。

[2] ジェレミー・マンディ、鳥飼久美子訳『翻訳学入門』みすず書房、2009 年、7－8 頁。

[3] 前掲書、58 頁。

[4] 前掲書、65－66 頁。

[5] 前掲書、73－74 頁。

[6] 様々な翻訳ストラテジー論に対しては、河原清志「翻訳ストラテジー論の批判的考察」(『翻訳研究への招待』(12)、日本通訳翻訳学会、2014 年）が詳しい。

[7] *Stylistique comparée du français et de l'anglais* (George G.Harrap & Co Ltd、1958)。英訳は 1995 年に *Comparative Stylistics of French and English: A Methodology for Translation* (John Benjamins Pub Co、1995) として刊行された。

[8] ピムは、等価理論の利点と問題点とを明らかにするために等価の理論群を分類して「自然的等価」と「方向的等価」という概念を持ち出した。自然的等価とは、翻訳行為以前に言語間もしくは文化間に存在すると考えられるもので、言語 A から言語 B に訳した場合とその逆に訳した場合、等価に変わりはないとする。一方で、方向的等価とは、起点テキストと目標テキスト間の類似性があるので、言語 A から言語 B 方向に訳した場合と、逆方向に訳した場合に同じにはならないとする。この二つの分類の中で「自然的等価」のパラダイムに沿って多くの翻訳手順が提示されるが、ヴィネイとダルベルネの 7 つのカテゴリーもその中の一つであるという。(アンソニー・ピム、武田珂代子訳『翻訳理論の探究』みすず書房、2010 年、12－13 頁。)

[9] アンソニー・ピムは、中国語、日本語、韓国語は、ゲルマン語もしくはロマンス語との統語法上の明確な関係がないので、通常最初に試みる翻訳手順は「直訳」より「転位」の方であるという。また、「転位」と「調整」の間に一貫した区別をつけるのは非常に難しく、特定の領域における等価を再現する手段として借用と語彙借用がはるかに頻繁に用いられ、また受け入れられているという。(前掲書、30 頁。)

【参考文献】

アンソニー・ピム（2010）『翻訳理論の探求』（武田珂代子訳）みすず書房

藤濤文子（2007）『翻訳行為と異文化間コミュニケーション―機能主義的翻訳理論の諸相』松籟社

マンデイ，J.（2009）『翻訳学入門』（鳥飼玖美子監訳）みすず書房

吉本ばなな（1988）『キッチン』ベネッセ

요시모토 바나나（2015）『키친（キッチン）』（キム・ナンジュ訳）民音社（原著：吉本ばなな（1988）『キッチン』ベネッセ）

河原清志（2014）「翻訳ストラテジー論の批判的考察」（『翻訳研究への招待』（12）、日本通訳翻訳学会

藤濤文子（2004）「文学テクストの翻訳にみる異文化コミュニケーション行為―評価分析のための方法」東京：日本独文学会『ドイツ文学』

藤濤文子（2006）「機能主義的翻訳理論の展開と応用」『ドイツ文学論攻』阪神ドイツ文学会 第 48 号

鄭榮蘭（2016）「『日本文化開放』が韓国社会にもたらした影響―韓国政府による開放決定の背景と日本の生活文化流入の状況」（『アジア太平洋研究センター年報』第 13 号 2015－2016、大阪経済法科大学

徐賢燮（2012）「韓国における日本文化流入制限と開放」『研究紀要』（13）長崎県立大学